

7月号

あいさつと国際理解

校長 桐ヶ谷 淳子

学校 だより



大和市立草柳小学校
大和中央3-6-1

6月の最終週は、記録的な暑さが続きました。28日は、4年生が校外学習で環境管理センターに行く予定でしたが、徒歩での移動時間が長いことから急きょ中止とし、担任がセンターを訪問し、オンラインでの学習に切り替えました。

今までも遠足等の行事や校外学習は、天候に左右されることが多々ありましたが、熱中症のリスクがこれほど高くなると、実施時期や内容など教育課程全体を見直すことも考えなければならぬと感じています。

17、18日は5年生のキャンプでした。乳搾りや藍染体験など楽しい時間を過ごすことができました。また、コロナ前と全く同じようにはいきませんが、キャンプファイヤーでは歌やダンス、そしてクラスのスタンツが披露されました。その様子を見て、できることが少しずつ増えてきたことがうれしかったです。ファイヤーが終わるころにはすっかり日が落ちて、県内とはいえキャンプ場は闇に包まれました。薪が燃えた匂いとファイヤーの興奮冷めやらない子どもたちの声に、本当に実施できて良かったなと思いました。

1学期は6年生の修学旅行に始まり、各学年の遠足や校外行事等が続きました。コロナで一斉臨時休業になったり、活動に多くの制約がかかったりしたことを思い出すと、忙しい毎日がとても貴重なもののように感じられます。

今後も感染の拡大防止に配慮しながら、子どもたちにとって学校生活が楽しいものになるよう職員一同、力を合わせていきたいと思っています。

「おはようございます(日本語)」

「ナマステ(サンスクリット語:ネパール、インド)」

「ボンジア(ポルトガル語)」

「アニョハセヨ(韓国語)」

「シンチャオ(ベトナム語)」

「グットモーニング(英語)」

「ザンシャンハオ(中国語)」

「サワディーカー(タイ語)」

「マガンダウマガ(タガログ語:フィリピン)」

「ブエノスディアス(スペイン語)」

6日から24日までの間、児童会のあいさつ運動がありました。あいさつを習慣化すること、校内の交流を深めること、みんなが楽しく児童会行事に参加することが目標です。正門では運営委員と代表委員の子どもたちを中心に、日本語だけでなく、いろいろな国の「おはよう」の言葉が聞かれました。昇降口ではあいさつの言葉と、それぞれの国の国旗が紹介されていました。

大和市には多くの外国につながる方たちが暮らし、本校にも国際教室が設置されています。子どもたちが他国の言語に触れることは、国際理解教育の第一歩だと考えます。他国の文化や伝統、歴史を知り、互いに尊重し合うこと。それがいかに大切なことであり、同時に難しいことであるかを、今あらためて感じています。

7月7日は七夕。願い事を短冊に書いて笹に飾ります。昨年、一昨年は「コロナ」の三文字が多く見られました。

今年はさらに「平和」の二文字を願い、その言葉の重さをかみしめたいと思います。

